安全データシート

作成日　2013年06月24日
改訂日　2014年01月30日

製 品 名：Protein G Reagent Kit

1．化学品及び会社情報

製品番号　　：ACR5000PG
製　品　名　：Protein G Reagent Kit (Protein G resin)
製品和名　　：Protein G Reagent Kit (Protein G resin)
会　社　名　：メルク株式会社
住　所　　：東京都目黒区下目黒1－8－1　アルコタワー
製品取扱部門：メルクミリポア事業本部
MSDS発行部門：EQJ部 EHSグループ
電話番号　：03-5434-5267
ＦＡＸ番号：03-5434-5391
製　造　元：EMD Millipore Corporation

2．危険有害性の要約

GHS 分類
健康に対する有害性
皮膚腐食性/刺激性　：　区分2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性　：　区分2A
生殖毒性　：　区分2

シンボル

注意喚起語　　警告

危険有害性情報
H315　皮膚刺激
H319　強い眼刺激
H361　生殖能または胎児に悪影響のおそれの疑い

注意書き
P201　使用前に取扱説明書を入手すること。
P202　全ての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
P210　熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。－禁煙
P233　容器を密閉すること。
P264　取扱い後はよく手を洗うこと。
P281　指定された個人用保護具を使用すること。
P308+P313　ばく露またはばく露の懸念がある場合は、医師の診断/手当を受けること。
P305+P351　眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。
P338　コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P302+P352　皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。
P362　汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
P403+P235　涼しい所/換気の良い場所で保管すること。
P501　内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3．組成及び成分情報

単一物・混合物の区別　：　混合物

化学名又は一般名	含有率	化学式	官報公示整理番号（化審法）	官報公示整理番号（安衛法）	ＣＡＳ番号	ＥＣ番号
エタノール	17%	C_2H_5OH	(2)-202	公表	64-17-5	200-578-6

４．応急措置

吸入した場合：
被害者を直ちに暴露した場所から空気の新鮮な場所に移動させる。
呼吸困難または呼吸停止の場合、直ちに医師の診察を受ける。

皮膚に付着した場合：
石鹸を用いて多量の水で洗浄する。
汚染された衣服は直ちに脱ぎ捨てる。
直ちに医師の診察を受ける。

眼に入った場合：
多量の水で瞬きしながら、15分以上洗浄する。
直ちに眼科医の診察を受ける。

飲み込んだ場合：
直ちに医師の診察を受ける。
意識がない場合は、口にものを与えてはならない。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状：
眼に入った場合：
飛沫や蒸気との接触：刺激作用
固定瞳孔の重度の中毒症状
皮膚に付着した場合：
アレルギー性のじんましんのおそれ
小児で皮膚から吸収した場合：毒性症状
慢性または継続ばく露の場合：皮膚刺激のおそれ
皮膚ばく露の場合：吸収されるおそれ
吸入した場合：
エタノール蒸気のばく露：中枢神経障害、眼や上気道刺激のおそれ
吐瀉物の吸引により肺炎や肺水腫をおこすおそれ
一般に代謝性アシドーシスにより、多呼吸をおこし、末期症状として、突発性呼吸器不全をおこすおそれ
飲み込んだ場合：
特徴的な急性の暴露症状：混乱、運動失調、情緒不安定、知覚障害、感覚障害、意識喪失、標準的な試験における運動機能の低下、かすみ目、複視、視野狭窄、飛蚊症、視力の急激な低下、視神経委縮、失明、視界の白化、呼吸抑制のおそれ、中枢神経障害から昏睡をおこすおそれ

５．火災時の措置

消火剤：
周辺の貯蔵品に適用される消火剤

消火を行う者の保護：
適切な保護具を着用し、安全な場所から消火活動を行う。

６．漏出時の措置

人体に対する注意事項：
作業の際には保護具を着用し、風上から作業すること。

環境に対する注意事項：
表層水、地下水、下水、土壌の汚染を避ける。

回収・中和等：
吸収剤に吸着させて、適切な廃棄処理を行う。
漏出箇所はきれいに清掃する。
付着物、廃棄物などは関係法規に従って処置すること。

その他：
風下の人を退避させ、漏洩した場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する。

付近の着火源となるものを速やかに取り除く。

７．取扱い及び保管上の注意

取扱い：
安全取扱い注意事項を確認し、化学的暴露を避けるため推奨される適切な個人用保護具を着用すること。
飲食、共用設備に触れる前に手を洗うこと(電話、コンピューターなど)。
この製品を使用するときは適切な換気を行うこと。

保管：
容器は気密性を保つ。
Product technical data sheetを参照のこと。

８．ばく露防止及び保護措置

許容濃度等：
TWA 1000ppm　TWA 1900mg/m³　エタノール
(出典)：OSHA PEL
TWA 1000ppm　TWA 1900mg/m³　エタノール
(出典)：NIOSH REL
IDLH 3300ppm　エタノール
(出典)：NIOSH REL
TWA 1000ppm　TWA 1900mg/m³　エタノール
(出典)：ACGIH TLV(USA)

ばく露防止措置：
設備対策：
この製品を使用する場合は、一般的な換気装置を設置すること。
取扱い場所の近くに、緊急時に洗眼、身体洗浄を行う設備を設置する。
緊急時、局所排気装置を用いる。

衛生対策：
眼、皮膚および衣服に触れないようにする。

保護具：
保護眼鏡：
ゴーグルまたはフェイスシールド
緊急時、適切な化学飛沫用安全メガネまたは顔面保護具を使用する。

保護手袋：
有機溶剤または化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用する。

呼吸用保護具：
必要に応じて、呼吸保護具を使用する。

その他の保護具：
有機溶剤または化学薬品が浸透しない材質の保護衣を着用する。
緊急時、化学品耐性保護衣、ブーツを着用する。

９．物理的及び化学的性質

形　状：懸濁液
色：無色～白色
臭　い：データなし
密　度：データなし
ｐＨ：7～8
蒸気圧：データなし
沸　点：データなし
引火点：38.9℃
自然発火点：データなし

作成日　2013年06月24日
改訂日　2014年01月30日

爆 発 限 界　：　下限　データなし
　　　　　　　　　　上限　データなし
溶　解　性　：　水に溶ける。

その他
酸化性　：　なし

１０．安定性及び反応性

安定性：
通常の取扱い条件下では安定である。
Product technical data sheetを参照のこと。

危険有害反応可能性：
反応するおそれ:
強酸化剤、酸、アルカリ金属、アンモニア、ヒドラジン、過酸化物、ナトリウム、酸無水物、次亜塩素酸カルシウム、塩化クロミル、過塩素酸ニトロシル、五フッ化臭素、過塩素酸、硝酸銀、硝酸水銀、カリウムtert-ブトキシド、過塩素酸マグネシウム、酸塩化物、白金、六フッ化ウラン、酸化銀、七フッ化ヨウ素、臭化アセチル、二硫酸ジフルオリド 、テトラクロロシラン＋水、塩化アセチル、過マグネシウム酸、酸化ルテニウム(VIII)、過塩素酸ウラニル、二酸化カリウム

避けるべき条件：
Product technical data sheetを参照のこと。
点火源

危険有害な分解生成物：
炭素酸化物，窒素酸化物，モノマー蒸気

１１．有害性情報

急性毒性：
経口：
LD50(oral/rat)　:　7000mg/Kg　(RTECS)　エタノール
吸入：
LC50(inh./rat)　:　20000ppm　(10h)　(RTECS)　エタノール

皮膚刺激性：
ウサギを用いた試験により、中程度の刺激性を示す成分を含有する。

眼刺激性：
ウサギを用いた試験により、重度の刺激性を示す成分を含有する。

感作性：
データなし

発がん性：
データなし

生殖毒性：
データなし

特定標的臓器毒性-単回ばく露：
データなし

特定標的臓器毒性-反復ばく露：
データなし

吸引性呼吸器有害性：
データなし

追加情報：
有害性を否定することは出来ないが、それらを予測評価するための十分な知見はない。

１２．環境影響情報

生態毒性：
LC50　　13480 mg/l (48h)
ファットヘッドミノー（エタノール）
LC50　　13480 mg/l (96h)
ファットヘッドミノー（エタノール）

生体蓄積性：
蓄積性が低いと予測される。

移動性：
移動性の高い成分を含有する。

PBTアセスメント：
データなし

その他：
データはないが、自然水、下水、土壌中への流出を避ける。

１３．廃棄上の注意

残余廃棄物：
廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。

容器包装：
関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行なう。空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去すること。

１４．輸送上の注意

安全対策：
運送に際して漏れのないことを確かめ、直射日光を避け、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

１５．適用法令

エタノール
労働安全衛生法第57条の2：通知対象物質

１６．その他の情報

参考文献：
製造元　MSDS（英文）

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データにもとづいて作成しておりますが、含有量、物質化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は通常の取扱いを対象にしたものなので、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい